

# 第2期 健康たけとよ21スマイルプラン

中間評価・見直し【概要版】

平成29年3月

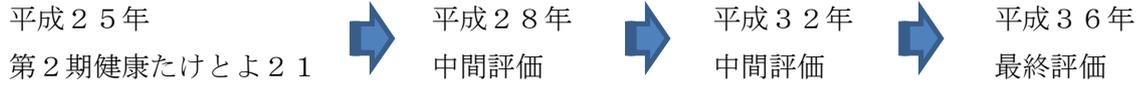
武豊町



## 基本理念

健康づくりはまちづくり  
「みんな笑顔でイキイキと暮らせる町 たけとよ」

## 計画・評価の流れ



## 評価方法

### (1) 達成率と判定区分

目標値が数値で定められている場合には、次の計算値から判定する。

$$\text{達成率} = \frac{(\text{中間評価} - \text{策定値})}{(\text{目標値} - \text{策定値})} \times 100 (\%)$$

評価区分	評価基準
A (達成・概ね達成)	目標達成または達成率90%以上 ・数値目標がない場合：あきらかな増加
B	B+ (改善) ベースライン値より改善 (達成率50%以上90%未満)
	B- (やや改善) ベースライン値より改善 (達成率10%以上50%未満) ・数値目標がない場合：ベースライン値から5%以上
C (変わらない)	ベースライン値から変化がない (達成率-10%以上10%未満) ・数値目標がない場合：ベースライン値から-5%以上5%未満
D (悪化)	ベースライン値より悪化 (達成率-10%未満) ・数値目標がない場合：ベースライン値から-5%未満
E (判定不能)	基準の変更により判定ができない

※ベースライン値：計画策定時または中間評価時の値

※「健康日本21 あいち新計画」の評価方法に準ずる

(2) 指標の見直しにより新規指標としたもの ⇒ (新)      変更したもの ⇒ (変更)

## (1) 健康づくり

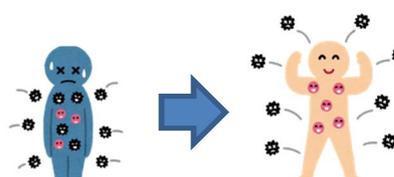
めざす  
姿

からだも点検！今すぐ始めよう、全身メンテナンス



## 方向性

健康寿命の延伸・健康格差の縮小・生活習慣病の発症と重症化予防をめざす。



## 達成状況と今後の目標

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>主観的健康感の向上</b>					
自分自身が健康だと思う人の割合	75.3%	77.4%	増加	C	80.0%
<b>がん検診の受診率の向上</b>					
がん検診の受診率					
胃がん	3.1%	3.5%	40.0%	C	40.0%
大腸がん	5.9%	7.8%	40.0%	C	40.0%
肺がん	10.3%	10.4%	40.0%	C	40.0%
子宮頸がん	6.3%	6.6%	50.0%	C	50.0%
乳がん	7.5%	8.8%	50.0%	C	50.0%
<b>メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少</b>					
(特定健診受診者のうち)					
メタボリックシンドローム該当者 及び予備群の出現率					
該当者	23.0%	22.3%	25%減少	B-	16.0%
予備群	10.8%	11.6%	25%減少	D	8.0%

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>特定健診・特定保健指導の実施率の向上</b>					
(国民健康保険被保険者のうち)					
特定健診の受診率	51.2%	52.2%	60.0%	B-	60.0%
特定保健指導の実施率	8.3%	18.6%	60.0%	B-	60.0%
最低受診区の受診率	38.9%	47.8%	50.0%	B+	50.0%
小学校地区の受診率 (新)					
武豊小学校	51.6%	55.3%	—	B-	60.0%
衣浦小学校	52.8%	53.9%	—	B-	60.0%
緑丘小学校	49.1%	50.9%	—	B-	60.0%
富貴小学校	50.5%	54.7%	—	B-	60.0%
	(H23年度は概算値)				
<b>地域のつながりの強化</b>					
この地域で安心して暮らしている と思う住民の割合(変更)	未把握	92.7%	100.0%	E	100.0%
<b>趣味の会、スポーツの会に参加している住民の増加</b>					
趣味の会、スポーツの会に参加 している住民の割合	20～64 歳 未把握 65 歳以上 43.1% (H22年度)	31.3%	増加	D	45.0%
<b>「憩いのサロン」拠点数の増加</b>					
憩いのサロン拠点数	8 か所	13 か所	14 か所	B	14 か所

## アンケートやデータから見えてきたこと

### ◎悪性新生物による死因別死亡割合について

男性では食道がん(12.5%)、女性は膵がん(20.5%)の割合が高い(県:男性 食道がん4.2%、女性 膵がん9.9%)。

### ◎特定保健指導率の実施率について

平成24年度から増加。

### ◎「過去1年間に、健診(健康診断や健康診査)や人間ドックを受けていない理由」について

20歳代男女において約5割が「面倒くさい」と回答。

30～40歳代男女において、約5割が「受診する機会がない」と回答。

### ◎男女とも趣味の会、スポーツの会に参加している人の割合について

約3割が「参加している」と回答。

特に20～30歳代男女では参加割合は2割未満。70歳代以上では約4～5割が参加。

### ◎健康だと感じるのはどんなときかについて

男性6割以上、女性は7割以上が「自分のことが自分でできる」「食事がおいしい」ときと回答。

## 課題

- ① メタボリックシンドローム予備群の出現率の増加
- ② がん検診受診率の低迷

## 課題解決のための方向性

- ① メタボリックシンドローム該当者及び予備群の出現率の減少
  - メタボリックシンドロームの腹囲基準値（男性85cm以上、女性90cm以上）を知っている人の増加
  - 年1回は必ず健診を受ける、もしくは自分の健康状態を把握する人の増加
  - 健診結果を振り返り、健康に配慮した生活の実践と継続に取り組む人の増加
- ② がん検診受診率の向上
  - がん検診の必要性を理解し、受診したいと思う人の増加
  - 定期的ながん検診を受ける人の増加

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種がん検診	胃がん検診、大腸がん検診、肺がん検診、子宮頸がん検診、乳がん検診、前立腺がん検診を実施する。子宮頸がん検診、乳がん検診、大腸がん検診については、がん検診推進事業に基づいて無料クーポン券を送付する。 また、各がん検診の要精密検査となった人に対し、受診勧奨を個別に実施する。	健康課
2	要精密検査未受診者への受診勧奨	各がん検診の要精密検査となった人で未受診者に対し、受診勧奨を個別に実施する。	健康課
3	肝炎ウイルス検診	肝炎ウイルス検診事業に基づいて実施する。	健康課
4	あおば健診	18歳から39歳で健診を受ける機会のない住民の健診を実施する。	健康課
5	特定健診	40歳から74歳の国民健康被保険者の健診を実施する。	保険医療課 健康課
6	特定健診未受診者勧奨	特定健診の未受診者を把握し、受診に向けた働きかけを実施する。特に未受診者の多い地域への啓発活動を実施する。	保険医療課 健康課

No	事業名	事業内容	担当課
7	後期高齢健康診査	後期高齢者医療被保険者の健診を実施する。	保険医療課 健康課
8	特定保健指導 (動機づけ支援・積極的支援)	健診結果に応じて、生活習慣病予防のための保健指導を実施する。	保険医療課 健康課
9	『めざせ！！脱！太っ腹な武豊』 幸せの黄色いリボン事業	町内協力機関や町内イベント、あおば健診等において男性85cm、女性90cmのリボンを設置または配布し、メタボリックシンドロームの周知や腹囲の日常的意識の向上に努める。	保険医療課 健康課
10	健康マイレージ事業	住民の生涯を通じた健康づくり活動を支援するためにチャレンジシートを配布し、満了者に対して「あいち健康づくり応援カード！～MyCa(まいか)～」を交付する。	健康課
11	重症化予防対策	健康課題がある者や適正受診ができていない場合に保健指導等を実施する。	健康課 保険医療課
12	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、がん検診の勧奨や健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課
13	健康相談	保健師による健康相談を実施する。	健康課
14	各種健康教育・啓発事業	健康づくりに関する様々な講座・教室を開催し、住民の健康意識を高め、正しい知識を普及する。また、広報たけとよやホームページ等において情報提供を実施する。	生涯学習課 健康課 スポーツ課
15	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
16	高齢者(B類)予防接種事業	65歳以上の住民に対して、高齢者肺炎球菌及び高齢者インフルエンザの予防接種を実施することで、住民の健康を維持する。	健康課
17	福祉まつり	健康づくりの啓発や測定(骨粗しょう症検診等)を実施する。また、保健センターや地域包括支援センターの紹介を実施する。	健康課 社会福祉協議会
18	保健推進員養成講座	地域における健康づくり実践活動の中核となる推進員を養成する。	健康課
19	保健推進員連絡会との協働事業	地域における健康に関する知識の普及と実践、健康課事業への協力を実施する。	健康課
20	保育園健康診断	保育園児の健康診断を実施する。	子育て支援課
21	学校健康診断	小中学生の健康診断を実施する。	学校教育課
22	憩いのサロン	65歳以上を対象に、地域のボランティアが中心となり、健康体操、交流活動などを実施する。	福祉課 地域包括支援センター 健康課
23	生活元気度調査	介護保険認定者以外の70歳の人へ基本チェックリストを郵送する。生活機能低下の該当者に、介護予防事業の勧奨を実施する。	福祉課 地域包括支援センター

## (2) 栄養・食生活



めざす  
姿

食べ方変えたら、からだも変わる。手に入れよう！元気の食習慣

### 方向性

食事量やバランスについて心がけ、自分自身の適正体重を保ち、楽しんで食べる習慣を持つことをめざす。

### 達成状況と今後の目標

★はすでに達成し、さらに高くした目標

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>肥満(BMI 25 以上)、やせ(BMI 18.5 未満)の減少</b>					
20～60 歳代男性の肥満者の割合	29.2%	31.8%	減少	D	28.0%
40～60 歳代女性の肥満者の割合	16.6%	18.8%	減少	D	15.0%
20 歳代女性のやせの人の割合	23.5%	25.8%	減少	D	20.0%
<b>主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日が、ほぼ毎日の人の増加</b>					
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日が、ほぼ毎日の人の割合	未把握	53.4%	50.0%	A	★65.0%
<b>野菜の摂取量の増加</b>					
1 日に食べる野菜のおかずが 3 皿分以上の人の割合(変更)	未把握	7.3%	100.0%	E	50.0%
<b>カロリーなどの栄養成分表示を参考にしている人の増加</b>					
カロリーなどの栄養成分表示を参考にしている人の割合	13.0%	31.9%	増加	A	40.0%
<b>よくかんで、毎食の食事時間 15 分以上を心がける人の増加</b>					
よくかんで、毎食の食事時間 15 分以上を心がける人の割合	27.0%	49.1%	40.0%	A	★60.0%
<b>楽しく食事をしている人の増加</b>					
楽しく食事をしている人の割合	14.9%	74.0%	30.0%	A	★85.0%
<b>腹八分目を心がけている人の増加</b>					
腹八分目を心がけている人の割合	31.8%	58.9%	50.0%	A	★70.0%

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>朝・昼・夕の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの増加</b>					
朝・昼・夕の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの割合 小学 4～6 年生(変更)	未把握	93.4%	増加	E	100.0%
<b>肥満傾向にある子どもの減少</b>					
中等度・高度肥満傾向児の割合 3 歳児	1.0%	0.2%	減少	B	減少
小学 4～6 年生(変更)	未把握	8.2% (H26 年度)	減少	E	7.0%
<b>共食の増加</b>					
食事をひとりで食べる子どもの割合の減少 小学 4～6 年生(変更)					
朝食	未把握	22.8%	減少	E	15.0%
夕食	未把握	5.3%	減少	E	2.0%
<b>高血圧の減少 (新)</b>					
(特定健診受診者のうち) 血圧有所見率	7.1% (H24 年度)	7.7%	—	D	7.0%
自身の味つけが濃いと感じる人の割合	11.3%	9.0%	—	B+	7.0%

## アンケートやデータから見えてきたこと

### ◎肥満（BMI 25.0 以上）とやせ（BMI 18.5 未満の割合）

全年代で男性では肥満の割合が高く、女性ではやせの割合が高い。

20 歳代では、男性の約 3 割が肥満であるのに対し、女性では約 3 割がやせである。

20 歳代女性のやせの割合は、前回評価時より増加。平成 27 年度国民健康・栄養調査では、20 歳代の女性のやせの割合は 22.3% であり、本町の割合の方が高い。

男女とも共通して 40 歳代で肥満度 I の割合が増加。

### ◎1 日に食べる野菜のおかずについて

「あなたは野菜のおかずを 1 日何皿分食べますか？」に対して、男女とも「5 皿分以上」と回答した人の割合は全ての年代で低い。

全年代においても男性より女性の方が野菜を多く食べる傾向で、女性は 50～60 歳代において野菜を食べる人の割合が高い。

20 歳代男性で「ほとんど食べない」と回答した人の割合が 13.6% と最も高い。

◎栄養成分表示を参考にしている人について

「あなたは外食や買い物とき、カロリーなどの栄養成分表示を参考にしていますか？」に対して、男性より女性の方が「している」と回答した人の割合が高い。

20歳代において、女性は5割以上、男性では1割未満がしていると回答。

◎食事時間について

「あなたはよく噛んで、毎食の食事時間を15分以上にしていますか？」に男性より女性の方が「している」と回答した人の割合が高い。

男女とも60～70歳代以上において「している」と回答した人の割合が高い。

30～50歳代女性で「している」人が減少。

◎腹八分目について

「あなたは食事をするとき、腹八分目にしていますか？」に対して、70歳代以上において「している」と回答した人の割合が7割以上。40～50歳代男性では5割未満。

◎肥満傾向にある子どもの割合について

平成27年度の3歳児中等度・高度肥満傾向児は0.2%とかなり低くなっている。

◎高血圧者の割合について

要介護者の有病状況から高血圧起因の疾病(心疾患・脳血管疾患)が県や同規模市町村と比較して高くなっている(武豊町国民健康保険データヘルス計画・KDBより)。本計画においても「高血圧の減少」を新規指標とし、取り組み・評価をしていくこととする。

## 課題

- ① 肥満者割合の増加
- ② 野菜摂取不足
- ③ 高血圧者割合が高い

## 課題解決のための方向性

- ① 肥満者割合の減少
  - 自分の適正体重を知っている人の増加
  - よくかんで、毎食の食事時間15分以上を心がける人の増加
  - 腹八分目を心がけている人の増加
- ② 野菜摂取の増加
  - 1日の野菜摂取の目安量を知っている人の増加
  - 自身の野菜摂取量を把握している人の増加
  - 野菜のおかずを今より1皿多く食べる人の増加
- ③ 高血圧者割合の減少
  - 1日の塩分の目安量を知っている人の増加
  - 栄養成分表示を参考にしている人の増加

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	栄養相談	管理栄養士による個別栄養相談を実施する。	健康課
2	各種健康教育・啓発事業	あおば健診、憩いのサロン、福祉まつり等において、講話や情報提供を実施する。	健康課
3	赤ちゃん教室 (離乳食編)	管理栄養士による離乳食の説明と試食を実施する。	健康課
4	7か月児すくすく相談	管理栄養士による離乳食についての講話、個別栄養相談を実施する。	健康課
5	特定保健指導 (動機づけ支援・積極的支援)	健診結果に応じて、生活習慣病予防のための栄養指導を実施する。 また、「元気！からだの学校」において“食ベレター”による情報提供を実施する。	保険医療課 健康課
6	重症化予防対策	ハイリスク者に対して本町の大きな課題である高血圧を中心に、重症化予防のための具体的な健康教育を実施する。	健康課 保険医療課
7	フレッシュパパママ教室 (しょくじ編)	妊娠中の食事や、非妊娠時の食生活について、管理栄養士の講話と試食を実施する。	健康課
8	食生活改善推進員養成講座	地域における食生活改善活動を行う推進員を養成する。	健康課
9	食生活改善推進員連絡協議会との協働事業	食の学習会、地域における健康づくりや食育・地産地消推進のための活動を実施する。	健康課
10	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課
11	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
12	食育推進協力店登録事業	食育、健康づくりに関する協力店の登録を県と連携して実施する。	健康課
13	各種料理教室	親子料理教室など様々な世代に向けた調理実習を行い、食に対する関心を高め健康増進を図る。	生涯学習課 健康課 学校給食センター
14	保育園での食育	保育園での野菜の栽培・収穫、調理活動や管理栄養士による食育活動を実施する。	子育て支援課

### (3) 運動・身体活動

めざす  
姿

暮らしの中に“動くクセ”。クセも積もれば運動に！



#### 方向性

生活習慣病予防のためにも、ライフスタイルに合わせて、日ごろから動くクセをつける。

#### 達成状況と今後の目標

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>日常生活における身体活動の増加</b>					
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	未把握	44.3%	増加	E	55.0%
<b>運動習慣者の増加</b>					
30分・週2日以上運動を1年以上継続している人の割合	未把握	38.2%	増加	E	40.0%
<b>運動やスポーツを習慣的にしている子どもの増加</b>					
授業以外で運動やスポーツを週に3日以上している子どもの割合 小学4～6年生(変更)	未把握	70.2%	増加	E	75.0%
<b>ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している住民の増加</b>					
ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している住民の割合	未把握	19.3%	80.0%	E	50.0%
<b>高齢者の社会参加の促進</b>					
憩いのサロンスタッフ数(変更)	194人	280人	増加	A	増加
シルバー人材センター会員数(変更)	292人	270人	増加	D	増加

## アンケートやデータから見えてきたこと

### ◎身体活動について

「あなたは日常生活において歩行又は同等の身体活動を、1日1時間以上行っていますか？」

⇒男女とも20歳代及び60歳代以上で「行っている」の回答割合が高い。男性は50歳代、女性は30歳代において「行っていない」の回答割合が高い。

### ◎運動について

「あなたは1回30分以上の軽く汗をかく運動を、週2日以上行っていますか？」

⇒男女とも60歳代以上で「行っている」と回答した割合が高い。

男性で20歳代、女性では30歳代において「行っていない」と回答した割合が高い。

### ◎運動の継続について

1回30分以上の軽く汗をかく運動を、週2日以上行っている人のうち「1年以上継続している」と回答した人の割合は84.8%、回答者全体のうちでは38.2%。

20歳代女性においては41.7%と、他の年代と比較して圧倒的に継続割合が低い。

### ◎運動していない理由について

運動をしていない理由は、「時間がない」が最も多く、男性50.5%、女性49.6%。

### ◎ロコモティブシンドロームの認知度について

「あなたはロコモティブシンドローム（運動器症候群）を知っていましたか？」

⇒「言葉も意味も知っていた」と回答した割合は男性14.3%、女性23.1%と低い。男女とも若年層の認知度が低く、年齢が上がるにつれ言葉を聞いたことがある人の割合が高い。

### ◎シルバー人材センター会員数について

平成27年度のシルバー人材センター会員数は270人であり、平成23年度と比較すると減少しているが、年次推移をみたところ年によって増減。

## 課題

① 40～50歳代男性、30歳代女性の運動不足

② ロコモティブシンドロームの認知度が低い

## 課題解決のための方向性

① 40～50歳代男性、30歳代女性の運動習慣の定着

- 運動の必要性を理解する人の増加
- 日常の身体活動を意識的に増やす人の増加

② ロコモティブシンドロームの認知度の向上

- 言葉を聞いたことがある人の増加
- 意味を知っている人の増加

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	ウォーキング教室など、様々な世代に向けた運動教室を実施し、身体活動の習慣化を図る。	生涯学習課 スポーツ課 健康課
2	「元気！からだの学校」 保健体育	特定保健指導対象者に対して、メタボ予防の健康体操を実施する。	保険医療課 健康課
3	憩いのサロン	65歳以上を対象に、地域ボランティアが中心となり、健康体操、交流活動などを実施する。	福祉課 地域包括支援センター 健康課
4	体操サロン	65歳以上を対象に、地域ボランティアが中心となり、筋力アップ・転倒防止のための体操などを実施する。	福祉課 地域包括支援センター
5	健康づくりリーダーとの協働	憩いのサロンなど地域において体操教室を実施し、健康づくりにおける運動効果を普及・啓発する。	福祉課 地域包括支援センター 健康課
6	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課
7	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
8	ウォーキングコース	自然、歴史文化、醸造蔵などテーマに合わせたウォーキングコースを設け、住民の健康増進を図る。	企画政策課 産業課 都市計画課
9	ゆめたろうスマイルマラソン	5・2・1 マイルの部門別マラソン及びファミリージョギングを開催する。	スポーツ課
10	たけとよウォーカー	距離別4コースを自分自身の体力に合わせてウォーキング、館内外イベントを開催する。	スポーツ課 防災交通課
11	たけとよチャレンジ大会	スリッパ飛ばし等10種目程度を開催する。	スポーツ課
12	体力チェック	握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立幅跳び、急歩を実施し、自分自身の体力年齢をチェックする。	スポーツ課
13	プール一般開放	住民の泳力向上と体力づくりのため、学校プールを一般開放する。	スポーツ課 学校教育課
14	体育協会活動事業	各競技スポーツの普及活動として大会を開催する。	スポーツ課
15	スポーツ推進委員活動事業	ニュースポーツ普及復興・出前講座を実施する。	スポーツ課
16	総合型地域スポーツクラブ活動事業	スポーツクラブ支援・スポーツ全般の普及振興を図る。	スポーツ課
17	介護予防教室	65歳以上を対象に、転倒予防教室など健康づくりに役立つプログラムを提供する。	福祉課 地域包括支援センター

## (4) 休養・こころの健康

めざす  
姿

“休息・睡眠・相談”でこころのバランスを整えよう



### 方向性

こころの健康づくりに対する意識を高め、日々の生活をいきいきと楽しんで送ることをめざす。

### 達成状況と今後の目標

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>気分障がい・不安障がいに相当する心理的苦痛を感じている人の減少</b>					
気分障がい・不安障がいに相当する心理的苦痛を感じている人の割合(うつ傾向の人の割合)	20~64 歳 未把握 65 歳以上 27.9% (H23年度)	19.5%	減少	B	14.0%
<b>睡眠による休養を十分にとれていない人の減少</b>					
睡眠による休養を十分にとれていない人の割合	未把握	20.1%	15.0%	E	15.0%
<b>自分の楽しみを持っている人の増加</b>					
自分の楽しみを持っている人の割合	86.7%	81.7%	90.0%	D	90.0%
<b>悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の増加</b>					
悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の割合(変更)	未把握	79.6%	増加	E	85.0%
<b>認知症サポーター延べ養成者数の増加</b>					
認知症サポーター延べ養成者数	540 人	1310 人	増加	A	増加

## アンケートやデータから見えてきたこと

### ◎うつ傾向の人の割合について

ここ2週間において、「毎日の生活に充実感がないと感じる」、「これまで楽しんでやれたことが楽しめなくなった」、「以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる」、「自分が役に立つ人間だと思えないと感じる」、「わけもなく疲れたように感じる」の5項目のうち2項目以上に該当した人をうつ傾向があるとし、集計を行った。

30歳代男性、50歳代女性においてうつ傾向が高い。30歳代男性においては、自分の楽しみを持っている人の割合も低い。

### ◎睡眠による休養を十分にとれていない人について

「あなたはここ1か月、睡眠で休養がとれていますか？」

⇒「まあまあとれている」の回答割合が高く、2割の人が「あまりとれていない」「全くとれていない」と回答。

特に20歳代男性は「あまりとれていない」の回答割合が高い。

### ◎悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人について

「あなたは悩みや心配事が相談できる相手や場所がありますか？」

⇒どの年代においても男性より女性の方が「ある」と回答した人の割合が高い。

30歳代男性は「ない」と回答した人の割合が3割以上と高く、女性においては50歳代で約2割と高い。

## 課題

- ① 30歳代男性におけるうつ傾向割合が高い
- ② 50歳代女性におけるうつ傾向割合が高い
- ③ 睡眠による休養を十分にとれていない人が多い

## 課題解決のための方向性

- ① 30歳代男性のうつ傾向割合の減少
- ② 50歳代女性のうつ傾向割合の減少
  - 悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の増加
  - 自分の楽しみを持っている人の増加
- ③ 睡眠による休養を十分にとれている人の増加
  - 睡眠の時間を確保するよう努める人の増加
  - 質の良い睡眠について知っている人の増加

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	各課の事業においてメンタルヘルスに関する講座を実施する。	健康課 福祉課 生涯学習課
2	健康相談	保健師等による個別精神保健相談を実施する。必要時、家庭訪問を実施する。	健康課 福祉課 地域包括支援センター 子育て支援課 社会福祉協議会
3	精神保健福祉連絡会	半田保健所、知多南部地域支援センターと連携し、地域の精神保健福祉に関するケース情報を共有化し、具体的な支援の検討をする。	福祉課 健康課 社会福祉協議会
4	憩いのサロン	65歳以上を対象に、地域のボランティアが中心となり、健康体操、交流活動などを実施する。	福祉課 地域包括支援センター 健康課
5	認知症サポーター養成講座	認知症高齢者を理解し支援する役割を担う認知症サポーターの養成を、住民向け・事業所・小中学校等で実施する。	福祉課 地域包括支援センター 健康課
6	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課



## (5) アルコール

めざす  
姿

飲む時・飲む量・飲むペース ルールを守っておつきあい



### 方向性

飲酒についての正しい知識を広めるとともに、妊婦や未成年の飲酒防止をめざす。

### 達成状況と今後の目標

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の減少</b>					
1日当たりの純アルコール摂取量					
男性 40g 以上の人割合	29.3%	11.6%	減少	B	15.0%
女性 20g 以上の人割合	14.3%	9.7%	減少	B	3.0%
<b>未成年者に対する飲酒の害について知っている子どもの増加</b>					
未成年者に対する飲酒の害について 知っている子どもの割合					
小学 4～6 年生 (変更)	未把握	95.3%	増加	E	100.0%
<b>妊婦中の飲酒をなくす</b>					
妊婦の飲酒率	5.8%	0.8%	0%	B+	0%

### アンケートやデータから見えてきたこと

#### ◎ (飲酒している人の) 飲酒頻度について

お酒を飲むと回答した人のうち、「毎日飲む」と回答した人の割合が、男女とも 50 歳代以上で高い。20 歳代女性は週 3 回以上飲酒する人がいないのに対して、30 歳代になると 50.1% と増えている。その中でも特に、「毎日飲む」の割合が約 3 割と高い。

#### ◎ (飲酒している人の) 飲酒量について

お酒を飲むと回答した人のうち、男性約 5 割が、「1 合以上 2 合未満」と回答。女性 6 割以上が、「1 合未満」と回答。

#### ◎ 妊婦の飲酒率について

平成 23 年度から平成 27 年度までの妊婦の飲酒率の年次推移は、平成 24 年度に大幅に減少し、その後横ばいになっている。

## 課題

- ① (飲酒している人のうち) 50歳代以上で習慣化している人が多い
- ② 未成年者及び妊婦の飲酒について

## 課題解決のための方向性

- ① (飲酒している人のうち) 50歳代以上で習慣化している人の減少
  - 休肝日の必要性を理解する人の増加
  - 適正な飲酒量を知っている人の増加
- ② 未成年者及び妊婦の飲酒について正しく理解している人の割合の維持
  - 未成年者や妊婦に対する飲酒の害について知っている人の増加

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	飲酒の害について周知を図るとともに、町主催のイベントや各種教室を実施する。	健康課 生涯学習課
2	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
3	特定保健指導 (動機づけ支援・積極的支援)	適正な飲酒量の情報提供をする。	保険医療課 健康課
4	母子健康手帳交付時での保健指導	アンケートにより、妊婦の飲酒習慣の有無を把握し、保健指導を実施する。	健康課
5	健康相談	保健師等による健康相談を実施する。必要時、家庭訪問を実施する。	健康課 福祉課 社会福祉協議会
6	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課

## (6) たばこ



めざす  
姿

たばこの煙は「吸わない」「吸わせない」

### 方向性

たばこの害を正しく理解し、禁煙および受動喫煙防止の意識向上をめざす。

### 達成状況と今後の目標

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>COPDの認知度の向上</b>					
COPD について知っている人の割合	未把握	17.4%	80.0%	E	30.0%
<b>成人の喫煙率の減少(喫煙をやめたい人がやめる)</b>					
成人の喫煙率(変更)					
男性	23.5%	25.7%	減少	D	17.0%
女性	4.1%	6.3%	減少	D	4.0%
<b>喫煙することで受ける害を知っている人の増加</b>					
喫煙することで受ける害を知っている人の割合	89.1%	96.1%	100.0%	B+	100.0%
<b>受動喫煙防止の取り組みを行っている施設の増加</b>					
受動喫煙防止対策実施認定制度を受けている施設数	118 か所	148 か所	増加	A	増加
<b>喫煙・受動喫煙の害について知っている子どもの増加</b>					
喫煙・受動喫煙の害について知っている子どもの割合					
小学 4～6 年生(変更)	未把握	97.4%	増加	E	100.0%
周りで喫煙している人がいると答えた子どもの割合(新)					
小学 4～6 年生	未把握	60.3%	—	E	50.0%
<b>妊娠中の喫煙をなくす</b>					
妊婦の喫煙率	7.1%	2.4%	0%	B+	0%

## 育児期間中の同居の家族の喫煙をなくす

同居の家族の喫煙率					
3か月児健康診査時	41.0%	46.3%	0%	D	0%
1歳6か月児健康診査時	45.5%	45.5%	0%	C	0%
3歳児健康診査時	46.5%	45.2%	0%	C	0%

## アンケートやデータから見えてきたこと

### ◎COPDの認知度について

「あなたはCOPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っていましたか？」に対して、「言葉も意味も知っていた」と回答した人の割合は、男女とも2割以下。また、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった」と回答した人の割合は男性の方が高い。

60歳代女性で「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった」と回答した人の割合が増えている。

### ◎喫煙状況について

「あなたはたばこを吸いますか？」に対して、「吸う」と回答した人の割合は男性25.7%、女性6.3%となっている。

30歳代男性は約4割が「吸う」と回答しており、他の年代と比較して喫煙率が高い。女性では20歳代の喫煙率が高く、子育て世代の30歳代で一時減少するが、40歳代で再度増加。

### ◎禁煙のきっかけについて

禁煙できたきっかけとして、男女とも「健康のことを考えてやめた」、「家族のことを考えてやめた」と回答する人の割合が高い。また次いで多いのが、男性では「周りから説得された」なのに対して、女性では「価格が高くなったから」と回答。

### ◎喫煙に関する病気について

「あなたが知っている、喫煙に関する病気は何ですか？」に対して、「肺がん」と回答した人の割合が9割以上。

「妊娠に関する異常」は女性で65.3%であるのに対し、男性では43.2%と低い。

### ◎妊婦の喫煙率について

平成23年度から平成27年度までの妊婦の喫煙率の年次推移は、緩やかに減少。

### ◎育児期間中の同居の家族の喫煙について

育児期間中の同居の家族の喫煙率は横ばい傾向にある。

## 課題

- ① 成人の喫煙率の増加
- ② 育児期間中における同居家族の喫煙率が高い
- ③ COPDの認知度が低い

## 課題解決のための方向性

### ① 成人の喫煙率低下

- 喫煙・受動喫煙についての害を理解し、たばこをやめたいと思う人の増加

### ② 育児期間中における同居家族の喫煙率の低下

- 喫煙・受動喫煙が胎児及び乳幼児に及ぼす悪影響を理解している人の増加

### ③ COPDの認知度の向上

- 言葉を聞いたことがある人の増加
- 意味を知っている人の増加

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	町主催のイベントや各種教室において、たばこの害について周知を図るとともに、禁煙治療のできる医療機関の情報を収集し、広く周知を図る。	健康課
2	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
3	母子健康手帳交付時での保健指導	アンケートにより、妊婦及び家族の喫煙習慣の有無を把握し、保健指導を実施する。	健康課
4	3か月児・1歳6か月児・3歳児健康診査時アンケート	問診項目で父母の喫煙習慣の有無を把握し、保健指導を実施する。	健康課
5	健康相談	特定保健指導の実施時に保健師等による健康相談を行い、たばこの害の周知啓発を図る。	健康課
6	企業・全国健康保険協会愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課
7	受動喫煙防止対策事業	受動喫煙防止対策実施施設認定申請の受付を行い、公共施設・公共の場・職場における敷地内禁煙、建物内禁煙を推進する。	健康課
8	薬物乱用防止啓発事業	薬物乱用のない地域づくりをめざし、薬物乱用防止の街頭活動を実施する。	健康課 福祉課 生涯学習課

## (7) 歯・口腔の健康

めざす  
姿

いい歯！いい口！いい笑顔！噛めておいしい歯っぴーライフ

方向性



生涯にわたり自分の歯でしっかり噛めるように、歯科保健の意識向上をめざす。

達成状況と今後の目標

★はすでに達成し、さらに高くした目標

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>歯周病検診受診率の増加</b>					
歯周病検診受診率	13.5%	13.4%	20.0%	C	20.0%
<b>歯の喪失防止</b>					
60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する 人の割合	76.3%	88.5%	維持増加	B	90.0%
40 歳で喪失歯のない人の割合	87.1%	93.2%	維持増加	B	95.0%
<b>歯周疾患を有する人の減少</b>					
進行した歯周炎を有する人の割合 (CPI 3 または 4 に該当する人)					
40 歳代	32.3%	13.5%	25.0%	A	★10.0%
60 歳代	30.3%	21.2%	維持減少	B	15.0%
<b>過去 1 年間に歯科検診を受診した人の増加</b>					
過去 1 年間に歯科検診を受診した人の 割合	未把握	63.1%	増加	E	70.0%
<b>1 日に 2 回以上歯をみがく人の増加</b>					
1 日に 2 回以上歯をみがく人の割合	67.2%	70.0%	80.0%	B-	80.0%
<b>3 歳児でう蝕がない子の増加</b>					
3 歳児健康診査の歯科健診において う蝕罹患型が O 型の子の割合	89.0%	85.5%	95.0%	D	95.0%
<b>12 歳でう蝕がない児童の増加</b>					
学校健康診査の歯科検診における 12 歳児(中学1年生)の永久歯のう蝕が ない児童の割合	59.8%	72.3%	65.0%	A	★77.0%

## アンケートやデータから見えてきたこと

### ◎子どものう蝕について

平成23年度と比較して、3歳児でう蝕がない子の割合は低い。12歳でう蝕がない児童の割合は高くなっている。

### ◎歯の健康管理について

「あなたは歯の健康管理として実践していることはありますか？」に対して、全ての項目において男性より女性の方が実践している割合が高い。

男女とも「歯磨きを1日2回以上する」の回答割合が高く、女性では約8割。

### ◎歯周病が全身の病気に関係があることを知っているかについて

「あなたは、歯周病が全身の病気に関係があることを知っていましたか？」に対して、「知っていた」と回答した人の割合は男性で52.7%、女性で67.0%。

男女とも20歳代の認知度は低く、40歳代以上で高い。

## 課題

- ① 3歳児でう蝕がない子の減少
- ② 歯周病検診受診率の低迷

## 課題解決のための方向性

- ① 3歳児でう蝕がない子の増加
  - 子どもの生活習慣とう蝕の影響を理解する親の増加
  - 子どもの歯の健康を意識する親の増加
- ② 歯周病検診受診率の向上
  - 歯周病と全身の病気について知っている人の増加
  - 歯の健康管理を実践する人の増加

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	歯周病検診	40～75 歳までの 5 歳刻みの住民に、歯周病検診を実施する。	健康課
2	妊産婦歯科健康診査受診票の交付	妊婦または産婦に対して、虫歯・歯周病などの診察、ブラッシング指導、歯科相談を歯科医師が実施する。	健康課
3	10 か月児すくすく相談	歯科衛生士による歯科衛生講話を実施する。	健康課
4	1 歳 6 か月児・2 歳児・3 歳児健康診査(歯科健診)	歯科健診、フッ化物歯面塗布、ブラッシング指導を実施する。	健康課
5	虫歯予防教室	町立保育園年長児と保護者に対し、保健師によるブラッシングの実技指導と歯科衛生講話を実施する。	健康課 子育て支援課
6	歯と口の健康週間事業	歯科医師による歯科検診、乳幼児のフッ化物歯面塗布を実施する。	健康課
7	各種健康教育・啓発事業	町主催のイベントや各種教室、広報において、歯の健康について周知を図る。	健康課
8	8020 表彰	80 歳以上で 20 本の歯がある高齢者の表彰を実施する。	健康課
9	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
10	企業・全国健康保険協会愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課
11	学校健康診断(歯科検診)	小中学生の歯科検診を実施する。	学校教育課
12	フッ化物洗口	小学校でフッ化物洗口を実施する。	学校教育課

## (8) 子どもの健康

めざす  
姿

子どもの笑顔は宝物！子どもが元気に生まれ育つまち

### 方向性

将来を担う次世代の健康づくりとして、特に妊産婦や子どもに焦点を当てた取り組みをすすめる。



### 達成状況と今後の目標

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>安全な妊娠・出産の確保のため、妊娠初期からの妊婦健診受診の促進</b>					
11 週以下での妊娠届出率	96.4%	97.6%	100.0%	B-	100.0%
<b>出産後1か月児の母乳育児の増加</b>					
1 か月児健診時の栄養方法が「母乳」または「混合」の割合(変更)	91.7%	93.4%	維持・増加	C	維持・増加
<b>全出生数中の低出生体重児の減少</b>					
出生時の体重が 2500g 未満の出生割合	10.5%	13.0% (H26 年度)	減少	D	9.6%
<b>お元気ですか訪問実施率の増加</b>					
お元気ですか訪問の実施率	90.3%	99.0%	100.0%	B+	100.0%
<b>母子健康診査受診率の維持・増加</b>					
母子健康診査受診率					
3 か月児健康診査	100.0%	96.7%	維持	C	100.0%
1 歳 6 か月児健康診査	96.7%	98.4%	維持・増加	C	100.0%
2 歳児歯科健康診査	94.9%	97.1%	維持・増加	C	100.0%
3 歳児健康診査	98.1%	98.9%	維持・増加	C	100.0%
<b>かかりつけの小児科を持っている家庭の増加</b>					
かかりつけの小児科を持っている家庭の割合					
3 か月児健康診査時 (新)	未把握	82.8%	100.0%	E	100.0%
1 歳 6 か月児健康診査時	未把握	98.0%	100.0%	E	100.0%
3 歳児健康診査時	未把握	89.9%	100.0%	E	100.0%
		(H23 年度暫定値)			

指標	策定値 (H23 度)	中間評価 (H27 度)	策定時 目標値 (H36 度)	中間 評価 ランク	見直し後 目標値 (H36 度)
<b>休日・夜間の小児救急医療機関を知っている家庭の増加</b>					
休日・夜間の小児救急医療機関を知っている家庭の割合					
1 歳 6 か月児健康診査時	未把握	72.1%	100.0%	E	100.0%
3 歳児健康診査時	未把握	72.9%	100.0%	E	100.0%
<b>乳幼児のいる家庭で、事故予防対策を実施している家庭の増加</b>					
3 か月児健康診査時 「たばこ・ボタン電池・硬貨は、1m以上の高さの ところにおいている」と回答した家庭の割合	70.4%	71.7%	100.0%	C	80.0%
1 歳 6 か月児健康診査時 「風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることが できないようにしている」と回答した家庭の割合	47.6%	48.9%	100.0%	C	60.0%
3 歳児健康診査時 「ベランダや窓のそばに踏み台になるものを置 かないようにしている」と回答した家庭の割合	96.5%	95.8%	100.0%	D	100.0%
<b>ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の増加</b>					
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合					
3 か月児健康診査時	84.2%	88.9%	維持・増加	B	90.0%
1 歳 6 か月児健康診査時	80.9%	81.6%	維持・増加	C	90.0%
3 歳児健康診査時	74.8%	69.8%	維持・増加	D	80.0%
<b>育児について相談相手のいる母親の増加</b>					
育児について相談相手のいる母親の割合					
3 か月児健康診査時	99.0%	98.7%	維持・増加	C	100.0%
1 歳 6 か月児健康診査時	99.5%	99.2%	維持・増加	C	100.0%
3 歳児健康診査時	99.3%	97.7%	維持・増加	C	100.0%
<b>子育てしやすいまちと感じている人の増加</b>					
子育てしやすいまちと感じている人の割合	未把握	41.6%	増加	E	60.0%
この地域で今後も子育てをしていきたいと感じている人の割合（新）					
3 か月児健康診査時	未把握	97.7%			100.0%
1 歳 6 か月児健康診査時	未把握	95.3%			100.0%
3 歳児健康診査時	未把握	96.2%			100.0%
		(H23 年度暫定値)			

## アンケートやデータから見えてきたこと

### ◎低出生体重児の割合について

平成23年度以降の低出生体重児の年次推移は、平成25年度までは横ばいになっており、平成26年度で増加。また、半田保健所管内においても同様の傾向。

### ◎お元気ですか訪問実施率について

平成23年度以降のお元気ですか訪問実施率の年次推移は、増加傾向。必要に応じて他市町と連携を図りながら、本町すべての乳児に実施できるよう努めており、平成27年度においては98.8%である。入院や里帰り中など何らかの事情により訪問できない場合もある。

### ◎母子健康診査受診率について

平成23年度以降の母子健康診査受診率の年次推移は、増減しながらも9割以上の受診率を維持。

### ◎事故予防対策を実施している家庭について

平成23年度から平成27年度までの事故予防対策を実施している家庭の年次推移は、横ばい。

1歳6か月児健康診査時において「風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないようにしている」の回答割合が5割以下。3か月児、3歳児と比較して圧倒的に低い。

## 課題

### ① 低出生体重児の割合の増加

### ② 事故予防対策を実施している家庭の低迷

### ③ 子どもが成長するごとに、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がない母親の増加

## 課題解決のための方向性

### ① 低出生体重児の割合の減少

- 喫煙など低出生体重児の出生リスクについて正しい知識を持っている人の増加
- 安全な妊娠出産のために、早い時期に妊娠届出ができる人の増加

### ② 事故予防対策を実施している家庭の増加

- 子どもの成長に起こりやすい事故について知っている人の増加

### ③ ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の増加

- 子どもの成長過程について知っている人の増加
- 子育て期間中に相談できる相手や場所がある人の増加

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	母子健康手帳交付・保健指導	母子健康手帳の交付及び活用方法の説明と、必要な保健指導を実施する。	健康課
2	妊産婦・乳児健康診査受診票の交付	妊婦健康診査、子宮頸がん検診、産婦健康診査、乳児健康診査を実施する。	健康課
3	フレッシュパパママ教室 (両親学級)	妊婦及びその家族を対象とした子育て講座を実施する。	健康課
4	未熟児訪問	低出生体重児を把握し、早期に訪問指導を実施する。	健康課
5	お元気ですか訪問	生後2～3か月児の家庭に、3か月児健康診査前に全戸訪問し、体重測定や育児相談を実施する。	健康課 子育て支援課
6	赤ちゃん教室 (お世話編)	保健師による子育て講座、半田病院看護師による乳児のホームケア、病院のかかり方についての講義を開催する。	健康課
7	3か月児健康診査	問診、身体測定、医師の診察、個別育児指導、防災に関する講話を実施する。	健康課 子育て支援課
8	7か月児すくすく相談	身体測定、個別育児指導、絵本の読み聞かせと絵本の紹介、個別栄養相談(希望者)を実施する	健康課
9	10か月児すくすく相談	身体測定、個別育児指導、赤ちゃんの歯についての講話、個別歯科相談(希望者)を実施する。	健康課
10	1歳6か月児健康診査	問診、身体測定、医師の診察、歯科医師の診察、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布、個別育児指導、心理相談(必要児)を実施する。	健康課 子育て支援課
11	2歳児歯科健康診査	問診、身体測定、歯科医師の診察、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布、個別育児指導、心理相談(必要児)を実施する。	健康課 子育て支援課
12	3歳児健康診査	問診、身体測定、医師の診察、歯科医師の診察、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布、個別育児指導、心理相談(必要児)を実施する。	健康課 子育て支援課
13	未受診者把握	各健診の未受診者の追跡、現状把握をする。	健康課 子育て支援課
14	育児相談・おしゃべりサロン	保健師による身体計測、個別育児相談を行う。育児相談の待合スペースを「おしゃべりサロン」とし、親子の交流の場として開放する。	健康課
15	心理相談	心理相談員による個別心理相談を実施する。	健康課
16	面接・電話相談	乳幼児・妊産婦等を対象に、保健師による面接相談、電話相談を実施する。必要時関係機関と合同面接、今後の処遇について検討する。	健康課 子育て支援課
17	家庭訪問	乳幼児・妊産婦を対象に、保健師による家庭訪問を実施する。必要時関係機関と合同面接、今後の処遇について検討する。	健康課 子育て支援課

No	事業名	事業内容	担当課
18	親子遊び方教室	保健師、指導保育士、主任保育士、子育て支援センター保育士、あおぞら園主任保育士、児童館厚生員がスタッフとして参加し、自由遊び、体操、親子で取り組める集団設定遊びを通じて、親子のかかわりや子どもの発達を観察する。スタッフによる個別育児相談を実施し、必要に応じて専門相談機関の紹介をする。	子育て支援課 健康課
19	あおぞら園・園庭開放での健康教育、育児相談	保健師による育児相談、健康教育を実施し、入園後の親子のかかわりや子どもの発達の変化について観察する。	子育て支援課 健康課
20	要保護児童対策事業	武豊町要保護児童対策地域協議会実務者会議（知多児童相談センター、学校、役場などで構成）にて、要保護家庭の情報を共有化し、具体的な支援の検討をする。 家庭訪問や定期面接などで、家庭の状況・児の様子について把握し、必要な支援を実施する。	子育て支援課 健康課 学校教育課
21	学校保健との連携	学校保健委員会等で、小中学生への健康教育を実施する。	学校教育課 健康課
22	不妊治療費等助成	一般不妊検査、治療及び人工受精に対する治療費を、年間5万円限度に5年度分まで助成する。	健康課
23	子ども(A類)予防接種事業	子ども(20歳未満)に対し予防接種を実施することで、疾病の伝染や発生及びまん延を予防する。	健康課
24	未熟児養育医療	2000グラム以下の未熟児または2000グラム以上であっても指定医療機関の医師が入院養育を必要であると認めた乳児に対して、医療費の一部を助成する。	保険医療課 健康課
25	こども相談	0歳～15歳の子どもをもつ保護者を対象に、主任児童委員が毎月1回中央公民館において相談を受ける。	子育て支援課

第2期 健康たけとよ21スマイルプラン

- 中間評価・見直し【概要版】 -

平成29年3月

武豊町 健康福祉部 健康課

